

学校编码: 10384
学 号: 12220101152565

分类号 _____ 密级 _____
UDC _____

厦 门 大 学

硕 士 学 位 论 文

从“间”的惯用表达解读日本人的
——以日本人的“间”意识为考察重点

「間」の慣用表現に見る日本人の人間関係
——日本人の「間」の意識を中心に

陈 瑶 华

指导教师姓名： 林 娟 娟 教 授
专 业 名 称： 日 语 语 言 文 学
论文提交日期： 2013 年 4 月
论文答辩时间： 2013 年 6 月
学位授予日期： 2013 年 月

答辩委员会主席： _____
评 阅 人： _____

从「间」的惯用表达解读日本人的
——以日本人的「间」意识为考察重点

陈瑶华

指导教师： 林娟娟 教授

厦门大学

2013 年 4 月

厦门大学博硕士学位论文摘要库

厦门大学学位论文原创性声明

本人呈交的学位论文是本人在导师指导下,独立完成的研究成果。本人在论文写作中参考其他个人或集体已经发表的研究成果,均在文中以适当方式明确标明,并符合法律规范和《厦门大学研究生学术活动规范(试行)》。

另外,该学位论文为()课题(组)的研究成果,获得()课题(组)经费或实验室的资助,在()实验室完成。(请在以上括号内填写课题或课题组负责人或实验室名称,未有此项声明内容的,可以不作特别声明。)

声明人(签名):

年 月 日

厦门大学学位论文著作权使用声明

本人同意厦门大学根据《中华人民共和国学位条例暂行实施办法》等规定保留和使用此学位论文，并向主管部门或其指定机构送交学位论文（包括纸质版和电子版），允许学位论文进入厦门大学图书馆及其数据库被查阅、借阅。本人同意厦门大学将学位论文加入全国博士、硕士学位论文共建单位数据库进行检索，将学位论文的标题和摘要汇编出版，采用影印、缩印或者其它方式合理复制学位论文。

本学位论文属于：

（ ） 1.经厦门大学保密委员会审查核定的保密学位论文，
于 年 月 日解密，解密后适用上述授权。

（ ） 2.不保密，适用上述授权。

（请在以上相应括号内打“√”或填上相应内容。保密学位论文应是已经厦门大学保密委员会审定过的学位论文，未经厦门大学保密委员会审定的学位论文均为公开学位论文。此声明栏不填写的，默认为公开学位论文，均适用上述授权。）

声明人（签名）：

年 月 日

要 旨

日本語で「間」を含む言葉は自然、風俗、芸術など、多方面にわたっており、やがてそれに関する意識も日本独特の文化概念となった。それは日常生活、言語行動、芸術など多岐にわたり重要な役割を果たし、日本人の民族心理をも表している。日本では「間」について、すでに多くの学者が研究を積み重ねてきたが、そのほとんどが文学・芸術・医学・哲学など様々な視点から分析し論述したもので、言語学の立場及びその方法論を用いた研究は多くない。さらにその独特な「間」と今日の社会現状とつながる考察もあまり触れられていないようである。一方、中国では日本の「間」に関する研究は比較的少なく、主に日本人の日常生活における「間」にまつわる諸現象を述べたものに限られる。言語学の角度から「間」の日本語表現を検討し、それを日本文化と結びつけて総合的に研究した試みはまだ不十分なのが現状である。

本稿では全般的に文化言語学の立場からアプローチを行う。言語の面において、日本語における「間」の慣用表現を研究対象として、認知言語学の視点から考察し、認知メカニズムの作用による意味拡張された「間」の意味を究明する。文化の面では、「文化記号解析法」という文化言語学の方法論を用いて、慣用表現の分析に基づき、「間」に関する慣用表現の特徴を明らかにして、そこに潜んでいる日本人の「間」の意識と人間関係に着目して考察を試みることにする。

本稿の構成は以下の通りである。

第一章においては、「間」の慣用表現と日本人の人間関係という問題に着目した理由を明らかにし、慣用表現の定義を行う。その上で、「間」に関する中日の先行研究を振り返り、その不足を指摘し、本稿の研究の立場、方法、目的及び価値を明示する。

第二章では、まず日本語の「間」という漢字の意味を検証してから、認知言語学の視点をもって、五つの日本語辞書から「間」に関する慣用表現を取り上げて整理し、「間」に動詞や形容詞を加えることによって生じた慣用表現を「情

的傾向」「物事の状態」「行動結果」と三つに分類する。また文章例を使って具体的に分析し、日本人にとって、その比喻により意味拡張された「間」は一種の感覚的な表現であり、物事の価値判断の基準として意識の深層に秘められている事実を検討してみる。

第三章では、島国という自然環境、稲作を中心にした農耕社会、共同心理を持つ単一民族、「余情」溢れる美意識、「不言実行」の言霊信仰という五つの面から、日本人の「間」の意識の形成はこのような日本的風土と深く関わっていることを論述する。さらに和辻哲郎の風土論を引用し、風土によって構築された日本人の「間柄」としての自己了解は、意識の層面においてはまさに人と人との関係を大事にする「間」の意識であるという結論を導く。そして日本の文化生活におけるさまざまな「間」の具体例を取り挙げて、その全ては日本人の「間」の意識から生じた人間関係を重視する現れであると解説する。

第四章においては、浜口恵俊の「間人主義」という概念を引用し、日本人の人間関係意識や、人間関係を重要視する姿勢、そして、その要因となる集団主義と相互依存性について解明しようとする。現代における日本社会の人間関係希薄化という現状はすでに社会全体の注目を浴びている。各界で共同事業や団体活動、またはメディア・ICTなどの手段を通じて、この問題の改善に励んでいる様子をいくつかの実例を通して論じてみる。

第五章では、上述の分析を踏まえながら、本研究をまとめるとともに、今後の課題を提起する。例文の収集・実情調査などにおいてはまだ足りないところが多くあり、今後も改めて研究を続けていきたいと考える。

キーワード：間；慣用表現；「間」の意識；間柄；人間関係

摘 要

日语中含有“间”字的词汇涉及自然、风俗、艺术等许多方面，与“间”相关的意识也逐渐成为日本独特的文化概念。这种意识在日本人的日常生活、言行举止、艺术等诸多方面起着重要的作用，也体现着日本人的民族心理。在日本，关于“间”早已有许多研究成果。纵观这些研究成果，大多是从文学、艺术、医学、哲学等视角对“间”进行分析论述，从语言学的视角并利用其方法论进行研究的并不多见，并且在将“间”与社会现状相联系的方面更少考察。另一方面，中国关于日本“间”的研究相对较少，主要是论述日本人日常生活中诸多“间”的相关表现，鲜有从语言学的角度分析日语中的“间”，并与日本文化相结合的综合研究。

本文拟从文化语言学的视角进行研究。语言层面上，以日语中“间”的惯用表达为研究对象，从认知语言学的角度入手，探究认知机制作用下“间”的派生意义。文化层面上，在分析惯用表达的基础上，利用文化语言学的“文化符号解析法”，说明“间”惯用表达的特性，从而进一步探讨其中蕴含的日本人的“间”意识，及其与人际关系之间的联系。

本文的构成如下所述。

第一章提出问题并确定惯用表达的定义，继而回顾目前中日方面关于“间”的研究动态，指出其中的不足之处，并对本研究的立场、方向、目的及价值进行说明。

第二章从认知语言学的角度对“间”的惯用表达进行分析。在说明日语汉字“间”的意义的基礎上，从五部日语辞典中抽取与“间”相关的惯用表达，阐明这些由“间”与动词或形容词复合而成的惯用表达在认知机制的作用下，完成了向“感情·性情”、“事物状态”及“行动结果”三个方面的意义扩展。通过文例分析，试图说明对于日本人而言，“间”是一种感觉上的表述，它作为衡量事物价值的标准，根植于日本人的意识深层之中。

第三章对日本文化中的“间”意识进行深入探讨。通过对日本的“自然环境”、“农耕社会”、“单一民族”、“审美意识”、“言灵信仰”的特殊风土

进行说明，指出其与“间”意识的形成密切相关。文中引用和辻哲郎的风土论，阐明日本人从风土中发觉出的“间柄”这一独特的自我存在，在意识层面上即是重视人与人之间关系的“间”意识。接下来对日本文化生活中存在的“间”进行举例，说明其源于日本人的“间”意识，并与人际关系的紧密相关。

第四章对日本人的的人际关系进行考察。文中引用了滨口惠俊提出的“间人主义”概念，阐明日本人重视人际关系，拥有较高的“人际意识”的特征，进而论述了其主因的集团主义和相互依存的作用。接着指出日本人际关系日趋淡薄的现状已引起全社会的广泛关注，通过实例说明日本各界正通过公共、团体活动以及媒体、ICT等手段努力改善人际关系。

第五章概括上述分析，总结研究，并提出今后的课题。本论文在例文收集及实际调查等方面还存在许多不足之处，今后将进一步深入探讨“间”与日本人的人际关系的新动态。

关键字：间 惯用表达 间意识 间柄 人际关系

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| 第一章 序論 | 1 |
| 1.1 問題の提起 | 1 |
| 1.2 慣用表現の定義 | 2 |
| 1.3 先行研究 | 3 |
| 1.3.1 中国における先行研究..... | 3 |
| 1.3.2 日本における先行研究..... | 4 |
| 1.4 研究の立場と方法 | 5 |
| 1.5 研究の目的と価値 | 7 |
| 第二章 「間」に関する慣用表現への認知的考察..... | 9 |
| 2.1 認知システムとしてのメタファーとメトニミー | 9 |
| 2.2 「間（ま）」に関する慣用表現 | 11 |
| 2.2.1 「間」という漢字の成り立ち..... | 11 |
| 2.2.2 日本語における「間」という字..... | 12 |
| 2.2.3 「間」の慣用表現の整理..... | 13 |
| 2.3 「間（ま）」の慣用表現の分類と分析 | 15 |
| 2.3.1 「情的傾向」を表す比喻..... | 15 |
| 2.3.2 「物事の状態」を表す比喻..... | 17 |
| 2.3.3 「行動結果」を表す比喻..... | 19 |
| 2.4 まとめ | 21 |
| 第三章 日本的文化としての「間」の意識..... | 23 |
| 3.1 日本人の「間」の意識の風土 | 23 |
| 3.1.1 自然環境..... | 23 |
| 3.1.2 農耕社会..... | 24 |
| 3.1.3 単一民族..... | 24 |
| 3.1.4 美意識..... | 25 |
| 3.1.5 言霊信仰..... | 25 |
| 3.2 和辻風土論における「間」 | 26 |
| 3.2.1 「人間」という言葉..... | 26 |

| | |
|-----------------------------|----|
| 3.2.2 風土——人間存在の構造契機として..... | 27 |
| 3.3 日本人の文化生活における「間」 | 28 |
| 3.3.1 接辞..... | 28 |
| 3.3.2 床の間と玄関..... | 30 |
| 3.3.3 しぐさ..... | 31 |
| 3.3.4 沈黙の時間..... | 32 |
| 3.3.5 茶道..... | 34 |
| 3.4 まとめ | 35 |
| 第四章 日本人の人間関係としての「間」 | 36 |
| 4.1 浜口恵俊の「間人主義」 | 36 |
| 4.1.1 「間人主義」とは..... | 36 |
| 4.1.2 「個人主義」から「間人主義」へ..... | 38 |
| 4.1.3 「間柄」という人間関係..... | 39 |
| 4.2 日本人の人間関係意識 | 41 |
| 4.3 日本人の人間関係意識の現状 | 42 |
| 4.3.1 人間関係意識の希薄とその要因..... | 42 |
| 4.3.2 人間関係改善への努力..... | 45 |
| 第五章 結論 | 48 |
| 5.1 研究のまとめ | 48 |
| 5.2 研究の不足と今後の課題 | 49 |
| 付録..... | 51 |
| 参考文献 | 55 |
| 謝辞..... | 59 |

目 录

| | |
|--------------------------|----|
| 第一章 序论 | 1 |
| 1.1 提出问题 | 1 |
| 1.2 惯用表达的定义 | 2 |
| 1.3 先行研究 | 3 |
| 1.3.1 中国关于“间”的先行研究..... | 3 |
| 1.3.2 日本关于“间”的先行研究..... | 4 |
| 1.4 研究的立场与方法 | 5 |
| 1.5 研究的目的与价值 | 7 |
| 第二章 “间”惯用表达的认知考察 | 9 |
| 2.1 认知机制的“隐喻”与“换喻” | 9 |
| 2.2 “间”的惯用表达 | 11 |
| 2.2.1 汉字“间”的起源..... | 11 |
| 2.2.2 日语汉字中的“间” | 12 |
| 2.2.3 “间”惯用表达的整理..... | 13 |
| 2.3 “间”惯用表达的分类与分析 | 15 |
| 2.3.1 “性情·感情”的比喻..... | 15 |
| 2.3.2 “事物状态”的比喻..... | 17 |
| 2.3.3 “行动结果”的比喻..... | 19 |
| 2.4 总结 | 21 |
| 第三章 日本文化的“间”意识..... | 23 |
| 3.1 日本人“间”意识的风土 | 23 |
| 3.1.1 自然环境..... | 23 |
| 3.1.2 农耕社会..... | 24 |
| 3.1.3 单一民族..... | 24 |
| 3.1.4 美意识..... | 25 |
| 3.1.5 言灵信仰..... | 25 |
| 3.2 和辻风土论中的“间” | 26 |
| 3.2.1 “人间”一词..... | 26 |

| | |
|-------------------------------|----|
| 3.2.2 风土——构成“人间”存在的契机..... | 27 |
| 3.3 日本人文化生活中的“间” | 28 |
| 3.3.1 接词..... | 28 |
| 3.3.2 壁龛与玄关..... | 30 |
| 3.3.3 举止..... | 31 |
| 3.3.4 沉默..... | 32 |
| 3.3.5 茶道..... | 34 |
| 3.4 总结 | 35 |
| 第四章 日本人人际关系的“间” | 36 |
| 4.1 滨口惠俊的“间人主义” | 36 |
| 4.1.1 “间人主义”的定义..... | 36 |
| 4.1.2 从“个人主义”到“间人主义” | 38 |
| 4.1.3 作为“间柄”的人际关系..... | 39 |
| 4.2 日本人的人际关系意识 | 41 |
| 4.3 日本人人际关系意识的现状 | 42 |
| 4.3.1 人际关系意识的降低与主要原因..... | 42 |
| 4.3.2 改善人际关系的措施..... | 45 |
| 第五章 结论 | 48 |
| 5.1 研究总结 | 48 |
| 5.2 研究的不足与今后的课题 | 49 |
| 附录..... | 51 |
| 参考文献 | 55 |
| 致谢..... | 59 |

第一章 序論

1.1 問題の提起

言語は文化を離れては存在しない。両者は不可分の関係にある。そして、文化はそれを築き上げた人々の特色にまで密接な関係を持っている。言語は文化の中に存在すると同時にその基盤でもあり、人間の思惟や行動を反映している一方、その文化に属する者の思考にも、意識的あるいは無意識的な影響を及ぼし、人々の行動パターンなどにも深い影響を与えている。

中国と日本は共に漢字を使用する漢字文化圏に属している。日本語の中の漢字の大多数は中国から伝わったもので、「間」という漢字もその一つである。日本語における「間」という漢字は複数の読み方を持ち、それぞれ使い分けがあるが、もっとも派生義が多くて、日本社会で頻繁に使われているのは「ま」と発音するものである。^①また、「間(ま)」を含む言葉は自然、風俗、生活、芸術など、多方面にわたっており、やがてそれに関する意識も日本独特の文化概念となった。それは日本人の日常生活、言語行動、芸術など多岐にわたり重要な役割を果たし、日本人の民族心理をも表している。

日本の「間」に関しては、すでに多くの研究が積み重ねられている。代表的なものには、剣持武彦の『「間」の日本文化』『日本人と「間」』、木村敏の『人と人の「間」』、浜口恵俊の『「間の文化」と「独(ひとり)の文化」』などがある。それらの書物は日本人の「間」について、日本独特の「間」の文化とその特質を、文学・芸術・医学など様々な視点から分析し論じている。

しかし、「間」という文字を切り口として、それに関する慣用表現などの言語の面から「間」の文化を研究するものがまだあまり注目されていないようで、その言語表現とそこに潜んでいる社会的文化的要素にもさほど論及されていないようである。ゆえに本稿は日本人の「間」に関する慣用表現から、「間」の文化の一面をめぐり、「間」の意識と日本人の人間関係に着目して研究を試みようとするのである。

^① 本稿では、固有の読み方以外、以下の「間」はすべて「ま」と発音するものとする。

Degree papers are in the "[Xiamen University Electronic Theses and Dissertations Database](#)". Full texts are available in the following ways:

1. If your library is a CALIS member libraries, please log on <http://etd.calis.edu.cn/> and submit requests online, or consult the interlibrary loan department in your library.
2. For users of non-CALIS member libraries, please mail to etd@xmu.edu.cn for delivery details.

厦门大学博硕